

大仙市誕生 10周年記念誌

10歳の誕生日
おめでとう



大仙市が誕生した平成 17 年 3 月 22 日に生まれた (写真左から)

さかきひいろ 賢木秀色くん、かきざきりむ 柿崎綾夢くん、いとうつばさ 伊藤飛翔くん

大
仙
市
も
10
歳

僕
た
ち
も
10
歳

大仙市誕生10周年に寄せて

大仙市長 栗林次美

わたしたちのまち『大仙市』は、記念すべき誕生10周年を迎えました。この佳節を市民の皆様とともに心からお祝いしたいと思います。

大仙市は、地方分権の確かな受け皿をつくり、

将来においても住民が安心して暮らせる地域を創造するため、平成17年3月22日、大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の8つの市町村が合併し誕生しました。以来、地方分権時代にふさわしい「市民との協働によるまちづくり」を旗印に、各地域の特性や独自性を大切にしながら新市としての一体感の醸成を図るとともに、地域自治区ごとに設置した地域協議会などを通じ、地域の声が行政に届く仕組みづくりや地域枠予算の創設による「市民と一体となったまちづくり」の推進に取り組んできました。

また、市政運営の基本方針である「大仙市総合計画」のもと、医療・福祉、子育て・教育、産業、防災などの喫緊の課題に取り組んできました。

まさに、基礎固めから発展、そして成熟へと、市民の皆様とともに歩んだ10年であり、新市の基盤は一定程度築かれてきていると感じております。今こうして記念すべき節目の年を迎えることができ、

本市の将来を思う多くの方々からのご理解とお力添えの賜物であると心から感謝を申し上げます。

この度の誕生10周年は、これまでの軌跡を振り返り、本市の将来を考え、新たなスタートを切るための節目のときであります。市ではこの節目に、これまで市民の皆様とともに築いてまいりました成果を礎に次なるステージへと飛躍できるように、まちづくりの基本方針を示す「次期総合計画」の策定や、本市における自治の基本理念・行政運営の基本原則を定める「自治基

礎」の策定を行うこととしております。この新たな総合計画並びに自治基本条例、そして、まちづくりの理想と決意を込めて本市誕生5周年の際に制定した「市民憲章」のもと、「市民と行政との協働」の気運を一層高めながら、市民が誇りと責任を持って活躍できるまちづくりを推進し、将来都市像であります「人が活き人が集う夢のある田園交

流都市」が実現できるように、これからも前に歩を進めてまいりますので、皆様からのさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

誕生10周年は

これまでの軌跡を振り返り

新たなスタートを切るための節目のとき

成果を礎に次なるステージに飛躍しましょう—





写真と年表で振り返る
わたしたちの「だいせん」 10年のあゆみ

2005

平成17年

- 3月22日 ▼大仙市誕生(人口96,059人)
- 3月22日 ▼今野正彬氏が職務執行者に就任
- 3月28日 ▼第1回大仙市議会臨時会、初代市議会議長に加藤勲氏、副議長に鈴木辰美氏が就任
- 4月17日 ▼大仙市長選挙、初代市長に栗林次美氏が就任
- 4月26日 ▼大曲球場が完成
- 6月5日 ▼第1回市制施行記念駅伝大会開催
- 6月25日 ▼大仙市体育協会設立
- 6月27日 ▼第1回市議会定例会で新市の当初予算が可決・承認。一般会計455億6,134万6千円
- 6月28日 ▼仙北南保育園新園舎竣工式開催
- 7月1日 ▼教育長に笹元嘉辰氏、代表監査委員に田牧貞夫氏が就任
- 7月4日 ▼神奈川県座間市と災害協定を締結
- 7月7日 ▼協和保育園新園舎竣工式開催
- 7月18日 ▼大仙市誕生記念式典開催
- 7月21日 ▼市町村合併後初の地域協議会を仙北地域で開催
- 8月2日 ▼幼保一体施設「なかせんワイワイランド」新園舎竣工式開催
- 9月18日 ▼大仙市議会議員選挙で30人の新議員が決定
- 10月1日 ▼大仙市老人クラブ連合会設立
- 10月1・2日 ▼大仙市誕生記念市民囲碁大会開催
- 10月14日 ▼2代目議長に橋本五郎氏、副議長に佐藤孝次氏が就任
- 10月22・23日 ▼「秋の総りフェア」初開催
- 12月11日 ▼大仙市スポーツ少年団本部設立
- 12月26日 ▼久米正雄氏が新助役に就任



市役所大曲庁舎で行われた開庁式



初登庁する栗林市長



初の市議会に議員136人が出席



号砲とともに一斉に駆け出すランナー (市制施行記念駅伝)



豪雪に見舞われ市では対策本部を設置



市町村合併で成人式も一本化



「ギバちゃんの部屋」に多くの来場者



大仙市誕生1周年記念式典



学校給食総合センター「スマイルランチ(*^_^*)」



「だいせん夢未来債」の抽選会

平成18年

1月10日 ▼大曲地域の積雪150釐を最高に各地域で110釐超え。「大仙市豪雪対策本部」を設置
 3月5日 ▼花火の街シンボルキャラクター「つつどん」と「たまちゃん」が誕生
 3月12日 ▼小杉山地区生涯学習センター、中仙公民館鶯野分館が竣工
 4月1日 ▼新教育長に三浦憲一氏が就任
 4月6日 ▼韓国唐津郡機池市大綱引きに市長・議長・刈和野大綱引き保存会長が訪韓(10日まで)
 7月11日 ▼大仙市企業連絡協議会設立(市内製造業48社が参加)
 8月15日 ▼大仙市初の成人式開催

10月1日 ▼大仙市誕生1周年記念式典開催。市の「花・木・鳥」「市民の歌」を制定
 10月1日 ▼地上デジタルテレビ放送が視聴可能に
 10月13日 ▼大曲西道路が全線開通
 10月14日 ▼南外地域簡易水道事業竣工式開催
 10月25日 ▼市と大仙警察署、大曲郵便局、J A秋田おぼこ、秋田県ハイヤー協会大曲仙北支部が「大仙市防犯パトロールの協力に関する協定」を締結
 10月30日 ▼学校給食総合センターの定礎式挙行。愛称が「スマイルランチ(*^_^*)」に決定

11月18日 ▼西仙北ぬく森温泉ユメリアに「ギバちゃんの部屋」がオープン
 12月2日 ▼神岡地域の屋内多目的施設「嶽ドーム」オープン
 12月22日 ▼学校給食総合センター建設のため「だいせん夢未来債」を発行。3億円の募集金額に対し、8億5,670万円(571件)の応募



2006



大仙市民賞第1号の有坂直樹さん



大仙市民賞を受賞した小松由佳さん



天皇后両陛下が国体に際し大仙市ご訪問



弘田柵跡で秋田わか杉国体・わか杉大会炬火採火式



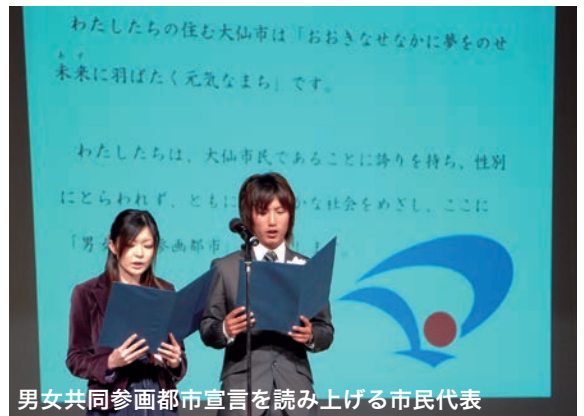
わか杉国体で大仙市を会場に開催された少年女子ハンドボール競技



秋田わか杉国体・なぎなた競技で秋田県勢が大活躍



市内企業・団体と災害時生活物資等応援協定を締結



男女共同参画都市宣言を読み上げる市民代表

2007 平成19年

3月3日 ▼ 競輪選手の有坂直樹さんが第1号となる大仙市民賞を受賞
 3月25日 ▼ サン・スポーツランド協和体育館竣工式開催
 4月1日 ▼ 副市長に久米正雄氏が就任
 5月16日 ▼ 登山家の小松由佳さんが大仙市民賞受賞
 7月24日 ▼ 市内企業・団体と災害時生活物資等応援協定を締結
 8月15日 ▼ 仙北地域の弘田柵跡で秋田わか杉国体・わか杉大会炬火採火式開催
 8月26日 ▼ 「日本国大仙市と韓国唐津郡と友好交流に関する協定」を締結
 9月 ▼ 9月定例議会で「大仙市男女共同参画都市宣言」が議決（宣言の議

決は県内で2番目）
 9月1日 ▼ 中仙地域の八乙女交流センターがリニューアルオープン
 9月11日 ▼ 水神社国宝収蔵庫で国宝線刻千手観音等鏡像の遷座祭
 9月23日 ▼ 国道13号神宮寺バイパス第1工区（西田交差点まで、3.3km）開通
 9月26日 ▼ 都市計画道路「駅東線」全線開通
 9月28日 ▼ 天皇后両陛下が秋田わか杉国体開会式へのご出席に際し、大仙市（秋田県仙北地域振興局と大曲養護学校）をご訪問
 9月30日 ▼ 秋田わか杉国体で大仙市を会場になぎなた、軟式野球、自転車競技が開会（なぎなた競技少年演技が本

県の優勝第1号に、成年女子試合が優勝）
 10月4日 ▼ 秋田わか杉国体で大仙市を会場に少年女子ハンドボール競技が開会（秋田選抜チームが第3位入賞）
 10月9日 ▼ 秋田わか杉国体閉会。秋田県が天皇杯と皇后杯を初めて獲得
 10月11日 ▼ 第3代市議会議長に大坂義徳氏、副議長に佐々木昌志氏が就任
 10月31日 ▼ 大仙市補助金審査委員会を設置
 11月3日 ▼ 国道13号旧玉川橋お別れ会
 11月17日 ▼ 男女共同参画都市宣言記念フォーラム開催
 12月 ▼ 仙北南地区簡易水道統合整備事業の全域給水開始
 12月1日 ▼ みつば保育園開園



協和小学校で初めての入学式



社会福祉法人大仙ふくし会が始動



国指定名勝・旧池田氏庭園弘田分家庭園



緊急消防援助隊北海道・東北ブロック合同訓練



「大曲の納豆汁」が第14代鍋将軍の称号を獲得



あきたふるさと手作りCM大賞でハッスル賞(特別賞)受賞

平成20年

2月▼協和地域の船岡小・淀川小・稲沢小で閉校記念式典開催
 3月▼協和地域の荒川小・峰吉川小・小種小で閉校記念式典開催
 3月3日▼社会福祉法人大仙ふくし会と社会福祉法人大空大仙が設立
 3月25日▼温泉保養施設「奥羽山荘」を株式会社わらび座に無償譲渡
 4月1日▼山王丸愛子氏が副市長に就任
 4月1日▼協和小学校開校
 4月1日▼市内7商工会が統合し、大仙市商工会が発足
 4月4日▼協和地域の大大盛館がリニューアルオープン
 4月22日▼佐竹藩主への献上水くみ

上げ井戸「御前井」が市初の文化財指定
 5月1日▼大仙市自殺予防ネットワーク推進協議会設立
 5月23日▼「秋田・岩手地域連携軸推進協議会」の8市町村で大規模災害時相互援助協定を締結
 6月1日▼太田地域の温泉保養施設「奥羽山荘」リニューアルオープン
 7月16日▼大仙PTA連合会設立
 7月21日▼JR神宮寺新駅舎が完成
 7月28日▼弘田分家庭園が国指定名勝池田氏庭園へ追加指定
 8月5日▼大仙美郷環境事業組合一般廃棄物最終処分場竣工式開催
 10月1日▼大仙市企業誘致推進本部・推進プロジェクトチーム設置

10月10日▼市で初の国際会議「第10回国際アジア民俗学会」開催(12日まで)
 10月15・16日▼緊急消防援助隊北海道・東北ブロック合同訓練開催
 11月1日▼幼保一体の新園舎「かみおか幼稚園・神岡保育園」新園舎開園
 11月20日▼第1回大仙農業元気賞表彰式開催
 11月28日▼大曲消防署西分署竣工式
 12月▼あきたふるさと手作りCM大賞でハッスル賞(特別賞)受賞
 12月7日▼「大曲の納豆汁」が第14代鍋将軍(グランプリ)を受賞
 12月15日▼「大仙市経済・雇用・生活緊急対策本部」を設置
 12月24日▼西仙北地域の市営住宅完成

2008



市と国際教養大学が「国際交流に関する連携プログラム協定」締結[写真左は中嶋嶺雄前学長(故人)]



ペアーレ大仙



JR大曲駅東口の「非核平和宣言塔」



大花都市再生住宅



大仙市ふれあい体育館

2009 平成21年

1月16日 ▼ 第4代市議会議員に佐々木昌志氏、副議長に北村稔氏が就任
 1月21日 ▼ 中仙天ぶら油回収ネットワーク設立
 2月6日 ▼ 西仙北スマートインターチェンジ地区協議会が設立
 2月20日 ▼ 市と国際教養大学が「国際交流に関する連携プログラム協定」締結
 2月28日 ▼ 大仙市国際交流協会設立
 3月2日 ▼ ペアーレ大仙開所
 3月27日 ▼ JR羽後長野駅舎が完成
 3月29日 ▼ 大曲乳児保育園新園舎竣工式開催
 4月1日 ▼ 代表監査委員に福原堅悦氏が就任

4月5日 ▼ 大仙市長選挙で栗林次美氏が無投票で再選
 4月10日 ▼ 「大仙市商品券」発売開始
 5月14日 ▼ 奥田酒造店店舗兼主屋が国の有形文化財に登録
 5月19日 ▼ 介護予防サポーター養成講座を開催。「介護予防いきいき隊」が誕生
 7月1日 ▼ 神岡中央公園が完成
 7月30日 ▼ 大花都市再生住宅が完成
 8月1日 ▼ 子育て支援・高齢者相談施設「まるこのひろば」(大花都市再生住宅内)が運営開始
 8月7日 ▼ JR大曲駅東口の「非核平和宣言塔」設置除幕式開催
 9月20日 ▼ 大仙市議会議員選挙

10月2日 ▼ 大仙市遊休農地活用センター開設
 10月6日 ▼ 第5代市議会議員に児玉裕一氏、副議長に大野忠夫氏が就任
 10月24日 ▼ 国道13号神宮寺バイパスが大坪交差点(1.7km)まで部分開通
 11月5日 ▼ 大曲上水道通水50周年記念式典。マスコットキャラクター「ぼたぼん」が誕生
 11月12日 ▼ NTT東日本と市が災害復旧時の協力に関する協定を締結
 11月30日 ▼ 大仙市ふれあい体育館竣工式開催
 12月 ▼ 協和地域の市営住宅が完成
 12月26日 ▼ 副市長に久米正雄氏が再任



市内6幼稚園の経営を大空大仙に委譲(写真左は笹元嘉辰理事長)



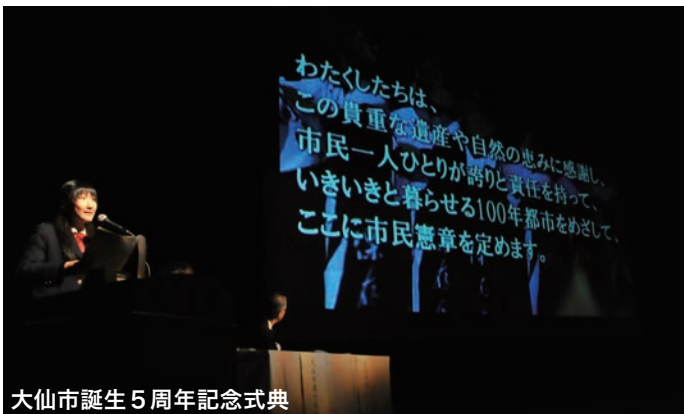
秋田大学と連携協定締結(写真右は吉村昇学長[当時])



大曲の花火百周年記念フォーラム



初開催から百周年を迎えた「大曲の花火」



大仙市誕生5周年記念式典



スポーツや文化活動の拠点として活用されている「はびねす大仙」

平成22年

3月15日 ▼ 建設業協会、電気工事、管工事組合、リース業協会と市が災害応援協定を締結
 3月22日 ▼ 大仙市誕生5周年記念式典開催
 4月 ▼ 粗大ごみの有料戸別収集が全地域で統一
 4月 ▼ 防災メール「防災ネットだいせん」配信開始
 4月26日 ▼ 市内6幼稚園の経営を大空大仙に委譲
 5月26日 ▼ 秋田大学と連携協定
 6月 ▼ 戸別所得補償モデル対策開始
 6月20日 ▼ 中仙小学校が創立40周年記念発表会開催
 6月24日 ▼ 大仙市農村交流推進協議

会設立
 6月30日 ▼ 市道黒森山線開通
 6月30日 ▼ 教育長に三浦憲一氏が再任
 8月 ▼ 大仙市ファミリーサポートセンター開設
 8月 ▼ 「大曲の花火」が100周年を迎える
 8月21日 ▼ 大曲市民会館で「大曲の花火100周年記念フォーラム」開催
 10月1日 ▼ 旧池田氏庭園洋館修復工事が完成
 10月18日 ▼ 秋田県総合防災訓練開催
 10月31日 ▼ 豊岡小学校が創立100周年を迎える
 11月3日 ▼ 国道13号神宮寺バイパス(第2工区)開通

11月9日 ▼ 県宅地建物取引業協会と私有財産売却の紹介業務に関する協定締結
 11月23日 ▼ 第1回秋田飴売り節全国大会開催
 11月30日 ▼ 大仙市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣から認定を受ける
 12月 ▼ あきたふるさと手づくりCM大賞2010で審査員特別賞受賞
 12月1日 ▼ 大仙市地域交流センター「はびねす大仙」開所
 12月18日 ▼ 大曲中がマーチング全国大会で最優秀賞受賞

2010



町を埋め尽くすがれきの山(岩手県宮古市)



津波に押し流される自動車(岩手県宮古市)



岩手県遠野市に開設した「だいせん応援ハウス」



市職員を被災地にボランティアとして派遣



「大曲の花火」に被災者286人を招待

3.11 東日本大震災

岩手県・宮城県・福島県の沿岸部を中心に東北地方に未曾有の大災害をもたらした日本中に大きな衝撃を与えた東日本大震災。大仙市では震度5強を観測し、停電や水道の断水、輸送網の寸断による燃料や食料、日用品の供給不足など大きな影響を受けました。市は、震災直後から被災地を全力で支援。市職員をボランティアとして派遣したほか、被災者を「大曲の花火」に招待。また、津波などで発生した災害がれきの処理を受け入れるなど、多方面にわたる支援活動で復興を後押ししました。

2011 平成23年

- 1月24日 ▼大仙市豪雪対策本部設置(積雪深137㍍、累計降雪量450㍍)
- 1月30日 ▼道の駅なかせんがリニューアルオープン
- 3月11日 ▼東日本大震災発生。大仙市では震度5強を観測
- 3月22日 ▼大仙市被災地・被災者支援本部を設置
- 3月26日 ▼西仙北ICがスマートインターチェンジ化
- 4月 ▼組織機構改革を実施。総合防災課を新設
- 4月19日 ▼東日本大震災のボランティア派遣活動拠点として「だいせん応援ハウス」を岩手県遠野市に開設
- 6月3日 ▼県が大曲通町地区市街地

- 再開発組合の設立を認可
- 6月3日 ▼大仙市住生活基本計画を策定
- 6月24日 ▼集中豪雨発生(1時間に30㍉、雄物川(神宮寺)で過去最高位7.74㍉を観測)。水防対策部を設置
- 7月20日 ▼東部農業委員会と西部農業委員会を統合。大仙市農業委員会を設立
- 7月26日 ▼だいせん大曲フィルムコミッション設立
- 7月31日 ▼第1回目の大仙市農業委員会選挙。関係団体の推薦委員を含む47人の委員が決定
- 8月27日 ▼「大曲の花火」に東日本大震災の被災者286人を招待

- 9月1日 ▼大曲建設業協会、大仙市北電気工事協同組合と水道局所管施設の停電に関する協定を締結
- 9月30日 ▼市内社会福祉法人等9団体と災害時福祉避難所の協定調印式
- 10月1日 ▼大仙市議会基本条例・大仙市議会議員政治倫理条例を施行
- 10月5日 ▼第6代市議会議長に鎌田正氏、副議長に藤田君雄氏が就任
- 10月28日 ▼西仙北大沢郷地区簡易水道施設竣工記念式典開催
- 11月1日 ▼光ファイバ通信網整備事業開通式(12,000世帯・総延長611㍍)
- 12月26日 ▼大仙市空き家等の適正管理に関する条例を制定



137年の歴史に幕を下ろし神宮寺小学校が閉校



西仙北地域の統合中学校・西仙北中学校で初めての入学式



県内全域で暴風雨が発生



宮古市からの災害がれきの受け入れ開始



皇太子さまが旧池田氏庭園を視察



東日本大震災被災地・被災者支援の集い

平成24年

2月4日 ▼被災地支援事業「福島っ子と秋田っ子の冬期交流プログラム」を実施(19日まで)
 2月18日 ▼宮崎市・大仙市有縁交流提携10周年記念式典開催
 2月23日 ▼市が新興エコファームを「大仙重点野菜の生産拡大に取り組む先進的モデル経営体」として表彰
 3月23日 ▼鈴木空如法隆寺金堂壁画模写及び下絵が県有形文化財に指定
 3月27日 ▼配達業者16事業者19事業所と地域見守り協力協定を締結
 4月 ▼神岡・西仙北・南外の8小学校・2中学校が統合し、神岡小・南外小・西仙北小・西仙北中が開校
 4月 ▼「だいせん日和」が全国広報コ

ンクール写真(1枚)の部で特選を受賞
 4月 ▼大曲図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞
 4月1日 ▼副市長に老松博行氏が就任
 4月4日 ▼県内全域で発生した暴風雨を受け、災害警戒対策部を設置
 4月18日 ▼大仙市総合民俗資料交流館「くらしの歴史館」オープン
 4月23日 ▼岩手県宮古市からの災害がれきの受け入れを開始
 4月24日 ▼大仙警察署と暴力団排除に関する合意書を締結
 4月28日 ▼東日本大震災被災地・被災者支援の集いを開催
 6月1日 ▼皇太子さまが旧池田氏庭

園をご視察(全国「みどりの愛護」のつどい出席で来秋)
 6月7日 ▼子育て支援施設「うさちゃんひろば」開所(中仙市民会館内)
 7月30日 ▼大曲仙北電気工事協同組合と防犯パトロールの協力に関する協定を締結
 8月8日 ▼秋田県環境整備事業協同組合県南支部大仙美郷業者会と「災害時におけるし尿及び浄化槽汚泥の収集運搬等に係る協定」を締結
 8月9日 ▼秋田おばこ節がJR大曲駅発車ベルに採用
 11月17日 ▼男女共同参画都市宣言5周年記念事業「ともに輝く」開催



大仙市観光物産協会設立



西部新規就農研修施設開所式



旧池田氏庭園案内所「巨洲館」開所式



市有形民俗文化財に指定された「蛭川渡船場の渡しぶね」



秋田デスティネーションキャンペーン



東京都で「秋田県大仙市ふるさとフェア2013」を開催

2013 平成25年

2月21日 ▼ 大仙市観光物産協会設立
 3月 ▼ 国道13号バイパス全線が開通
 3月31日 ▼ 大仙市長選挙で栗林次美氏が無投票で3選
 4月1日 ▼ 大仙市子ども・若者総合相談センターを開設
 4月1日 ▼ 代表監査委員に福原堅悦氏が再任
 4月12日 ▼ 西部新規就農研修施設開所
 5月20日 ▼ 秋田、岩手両県10市で災害時における相互応援に関する協定を締結
 5月30日 ▼ 秋田銀行・北都銀行・羽後信用金庫と災害協力に関する協定を締結
 6月20日 ▼ 子育て支援拠点施設「つなっこひろば」開所(西仙北中央公民館内)
 7月14日 ▼ 大仙市特典付チケット

(大仙市ニコニコ商品券)販売開始
 7月31日 ▼ 宮古市からの災害廃棄物の受け入れが終了
 7月31日 ▼ 大仙・仙北測量設計業協会と災害時における応急対策業務の応援に関する協定を締結
 8月11日 ▼ 大曲橋の架け替え工事が完了。「大曲花火大橋」として開通
 9月22日 ▼ 大仙市議会議員選挙で28人の議員が決定
 9月24日 ▼ 第1回大仙市特産品開発コンクールで大保納豆が最優秀賞
 9月25日 ▼ 「蛭川渡船場の渡しぶね」が市有形民俗文化財に指定
 10月1日 ▼ 秋田デスティネーションキャンペーン開幕(12月31日まで)

10月4日 ▼ 第7代市議会議員長に橋村誠氏、副議長に富岡喜芳氏が就任
 10月19日 ▼ 大曲駅前第2地区土地区画整理事業中通線アンダーパスが開通
 10月19日 ▼ 旧池田氏庭園案内所「巨洲館」開所
 11月 ▼ 新病院改築支援事業の財源活用のため「だいせん夢未来債」を発行
 11月23日 ▼ 東京都で「秋田県大仙市ふるさとフェア2013」を開催
 12月16日 ▼ 秋田県トラック協会と「災害時における緊急・救援輸送等の応援に関する協定」を締結
 12月24日 ▼ 西仙北ぬく森温泉ユメリアに再生可能エネルギー設備を導入
 12月26日 ▼ 副市長に久米正雄氏が再任



ブータン王国名誉総領事が来市



市内中学校の代表が参加した中学生議会



登録有形民俗文化財「秋田南外の仕事着」で中学生がファッションショー



国民文化祭フィナーレイベントで行われた「刈和野の大綱引き」



大曲厚生医療センターを核にした大曲通町地区第一種市街地再開発事業北街区が完成



大曲中学校吹奏楽部がマーチングバンド全国大会で5連覇



大曲工高野球部が大仙市勢では52年ぶりの春のセンバツ出場

平成26年-平成27年

1月9日 ▼中学生議会開催
 2月10日 ▼花火産業構想策定プロジェクト始動
 2月28日 ▼大仙市消防団に財団法人日本消防協会が「まとい」を授与
 3月4日 ▼太田公民館が第66回優良公民館表彰で文部科学大臣表彰
 3月10日 ▼秋田大学と荒川鉱山跡地の活用に関する覚書を締結
 3月10日 ▼「秋田南外の仕事着」が県内で初の国の有形民俗文化財に登録
 3月12日 ▼環境省が大仙美郷環境事業組合に感謝状を贈呈
 3月19日 ▼大仙市子ども条例を制定
 3月26日 ▼秋田県LPガス協会と災害時液化石油ガス等応援協定を締結

4月19日 ▼大曲厚生医療センターと「大曲仙北救急ワークステーションの設置に関する協定」を締結
 5月1日 ▼大曲通町地区第一種市街地再開発事業北街区がオープン
 5月28・29日 ▼ブータン王国名誉総領事が大仙市を訪問
 6月 ▼南外地域で移動販売車巡回サービスがスタート
 6月28日 ▼秋田県消防大会開催
 6月30日 ▼秋田銀行と大仙市・仙北市・美郷町が空き家解体ローン提携に関する覚書を締結
 6月30日 ▼教育長に三浦憲一氏が再任
 7月12日 ▼中仙地域の八乙女公園で「2014あきた水と緑の森林祭」開催

8月 ▼コミュニティFM「FMはなび」がイベントFM放送を実施
 10月4日 ▼「国民文化祭あきた2014」が開幕(11月3日まで)
 11月 ▼大仙市雪対策総合計画を策定
 12月13日 ▼大曲中学校吹奏楽部がマーチングバンド全国大会で5連覇
 1月23日 ▼大曲工業高校野球部が春のセンバツ出場決定
 3月21日 ▼神奈川県座間市と友好交流都市協定を締結
 3月22日 ▼大仙市誕生10周年記念式典開催。市マスコットキャラクター「まるびちゃん」誕生
 3月27日 ▼西部学校給食センター竣工式開催

2014
 ▼
 2015

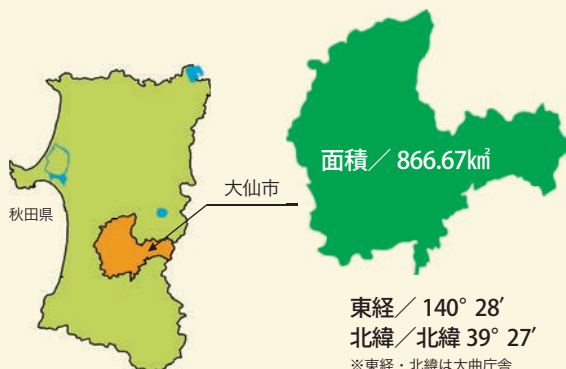
2005 ▶ 2015 数字で見る大仙市

東に奥羽山脈、西に出羽丘陵、米収穫量県内一の穀倉地帯

男性5,167人、女性4,459人減少

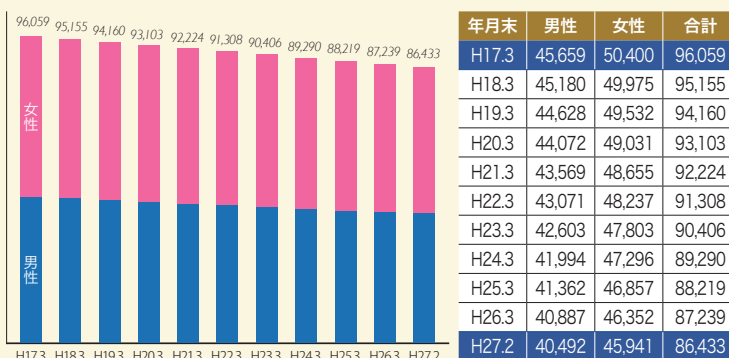
大仙市の位置・地形

(国土地理院)



男女別人口の推移 (平成17年3月～平成27年2月)

※住民基本台帳人口

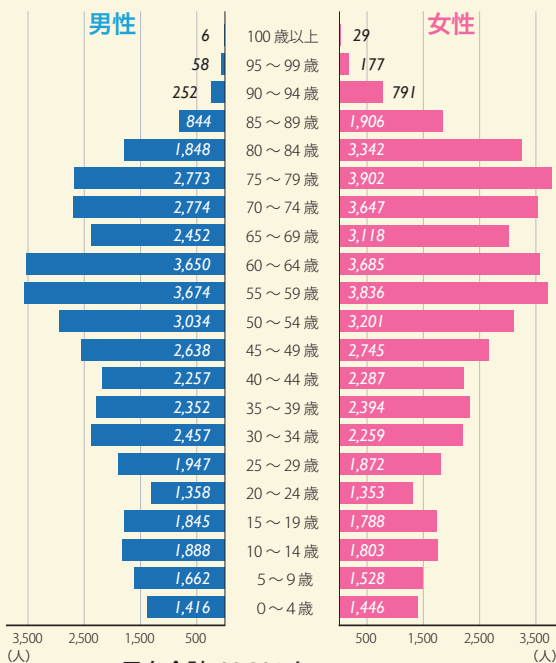


約32%が65歳以上。少子高齢化を表す「つぼ型」

減少率は協和が18.6%、南外が17.1%

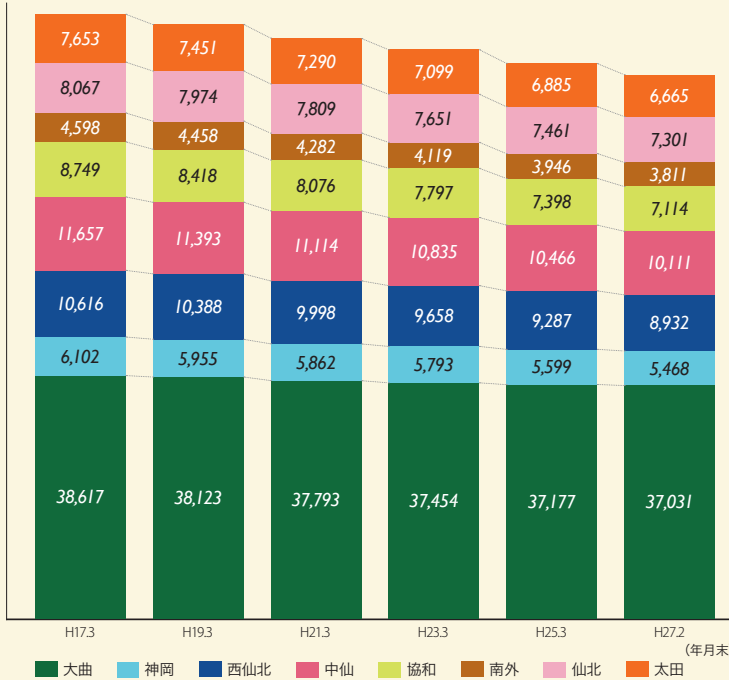
男女年齢別人口

国勢調査 (平成22年10月1日)



地域別人口の推移 (隔年)

※住民基本台帳人口



COLUMN

時代とともに変わるニーズ
皆さんの声を市政に

市民の皆さんの声を市政に反映させ、市民との協働のまちづくりを進めるために市が行っているアンケート調査「市民による市政評価」。平成26年度の結果を見ると「就業支援」「安全・安心体制」「産業振興」「公共交通」「行財政運営」が各分野の推進すべき取り組みとして上位になりました。

関連して「少子高齢化となった今、子育て支援の充実が必要」「若い人たちの流出を抑えるためにもっと働けるまちに」「雪解け後の道路整備(補修)と、子どもたちが安全に通行できる歩道」などのご意見をいただきました。

誕生から10年が経ち、市民の皆さんの思いとともに次の10年へのスタートを切った大仙市。たくさんのご意見をいただきながら、市民の皆さんと手を取り合って協働のまちづくりを進めていきます。わたしたちのまち「だいせん」。

市民の皆さんが「大仙市に生まれて良かった」「大仙市に住んで良かった」と考えるまちをつくるために。

「わたしが思う だいせん」の10年」

Special Interview

市制施行10周年の節目を迎えた大仙市。郷土のこれまでの歩みとこれからの未来に特別な思いを寄せる3人の皆さんからお話をうかがいました。



橋村 誠さん

大仙市議会議長[大曲地域在住]

大 仙市が誕生してから早いもので10年が経とうとしている。昔から近い間柄にあった大曲仙北の8市町村が力を合わせて新しいまちづくりをしようと同団結して成し遂げた市町村合併。新市として出発間もないころは合併のデメリットばかりが取りざたされていたが、この間、観光協会や体育協会などの各種団体も統一され、市全体が平らになった。また、長年にわたって建て替えが望まれていた仙北組合総合病院が移転新築し、大曲厚生医療センターとして新たにスタートすることができた。合併をしなかったら旧市町村は財政的に非常に厳しい状況にあっただろうし、公共施設の維持管理も難しかったかもしれない。この10年間はまちづくりを

進めていく上では地ならしの期間で、合併のメリットを伸ばしていくことがこれからの作業になるだろう。

課題は市民サービスの低下だ。合併後職員数は減少傾向にあり、地域の隅々まで行政の目が届かなくなるのでは、と感じている市民も少なくないと思う。そうした不安感を取り除くには、議員が市民の声を拾い上げるために地元偏重の意識を変え、活動の範囲を広げていかなければならない。

農業振興や地場産業の育成、雇用・子育て環境の充実など、市の主要な施策は人口減少を食い止め、定住人口を確保するという大きな目標につながっている。若い世代がここに住んでよかったと愛郷心を育てるまちづくりを目指して力を尽くしたい。



柳葉 敏郎さん

俳優 [西仙北地域在住]

「つか必ず故郷に帰る——。生まれ育ち、さまざまなかを体験したふるさとでの記憶が若いころの自分を支えてくれた。だからこそ、その思いは東京で暮らしていた26年間、一度も揺らいだことはなかった。」

娘が小学校入学の時期を迎えたことを機に地元・西仙北に戻ってきて間もなく10年。帰郷前から地元を行き来していたので、帰ってもやつていけると確信があった。実際に移り住んでみると子どもたちを育てる環境としては思っていた以上。子どもたちは地域の皆さんからの愛情を感じながら充実した日々を過ごしている。自分にとってふるさとのイメージは「安心感」。

若いころ、仕事で叩きのめされたり、悩んだりしたときは故郷に住む親や友達を思い浮かべた。帰郷してうれしかったのは、風景に変化があっても、そうした精神的な部分が変わっていなかったことだ。少子高齢化が進む中で子どもたちと大人との関わり合いに最適なものはスポーツだと思う。自分自身、少年野球教室や500歳野球などに参加して交流を楽しんでいる。仲間にはよく「百姓一揆しようぜ」と言っている。これは自分たちから積極的に行動しよう、という意味だ。自分は中高年と若者や子どもたちとのパイ役になればいい。次世代を担う子どもたちのためにもエンジン全開でいきたい。

Thinking about a decade of Daisen city

秋 田県内で今一番元気な市は大仙市だと、たまたま上京して来た秋田市在住の友人が言う。新幹線でも高速道路でも、一般道路も、中央へ向かう主要幹線は大曲経由が圧倒的に多い。昨年は立派な厚生医療センターが建ち、建築統行中の南街区が完成すると大曲駅前が県内で最も活性化された中心市街地になる、とベタ誉めだ。大仙市は上昇気流に乗っていると友人はうらやましそう。第一に若者が元気だ。未来を語り、行動をとり合う若者の集団が活発に動き出している。そして、今度は春のセンバツに大曲工業高校が出場する。「凄いな！」とため息交じりだ。ところで今年2月1日、関与す

る社団法人が東京で教育シンポジウムを開催した。テーマは「全国学力テストの結果から、秋田教育の分析」。講師は総合面から、秋田大学の阿部昇教授、指導上の実践的な成果報告は大仙市の三浦憲一教育長と大仙市教育研究所の須田百合子所長である。東京はもちろん、全国各地からの教育関係者が大仙市の成果を熱心に聴講した。文部科学省が調査を開始して以来7年経過したが、全国トップレベルの秋田県にあっても大仙市は常に上位にランクされる。私たちの誇りは花火に留まらない。

大仙市10年の実績は目覚ましい。首都圏大曲会も大いにあやかり、共に発展を期したい。

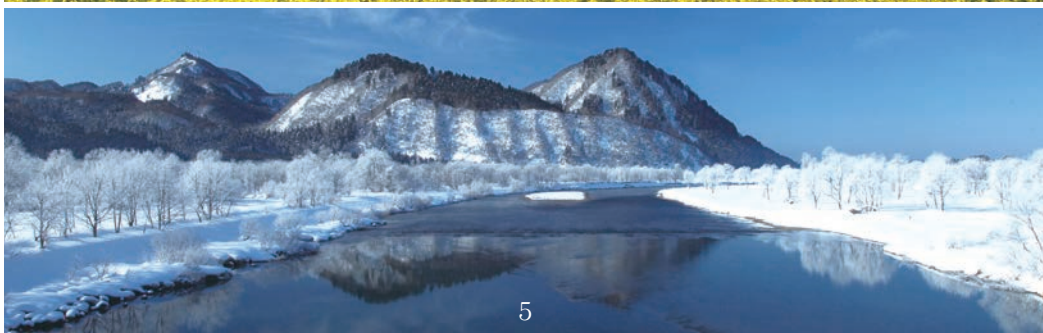


大釜 茂璋さん

首都圏大曲会会長 [大曲地域出身]



大仙、四季のうつろい



季節のうつろいととも、さまざまな表情を見せてくれる大仙市。そこには、足を止めてながめたい、わがまちならではの四季折々の風景が広がっています。

1. 中仙齊内川の桜並木(4月)
2. 西仙北高屋敷の水芭蕉(4月)
3. 大台スキー場からの夕日と田園・散居集落風景(5月)
4. 協和小種の菜の花畑(5月)
5. 玉川橋から玉川・姫神山を望む(2月)
6. 神岡宝蔵寺のケヤキ(9月)
7. 南外不動の滝(5月)
8. 旧池田氏庭園本家庭園の紅葉(11月)

地域協議会委員に聞く—— 「まちづくり」のこれから

市では地域住民の意見を反映させつつ地域に密着した事務に対応するため、合併前の旧市町村の区域ごとに地方自治法に基づく地域自治区を設置し、各地域自治区には地域協議会を置いています。協議会の委員は、各地域に配分された「地域枠予算」に関する事業を審議したり、地域の課題について話し合いをしたりと、地域の特色を生かしたまちづくりのために大切な役割を担っています。誕生から10年が経過し、新たなステージに進む大仙市。これから望まれるまちづくりのかたちについて語っていただきました。



Tomohiro Matsuzuka



まつづか ともひろ 松塚 智宏 さん

自営業(大曲・33歳)

秋田県の子どもたちは全国的に見ても学力が高いと言われます。だからこそ、地元で育った優秀な子どもたちが進学や就職で市外に出たまま戻ってこないのはとてももったいなく感じます。自分の職業である建築士は「誰か」のために住まいの設計をする仕事。学生時代から地元の「誰か」のために働きたいと考えていました。都会の住宅

関連業者は顧客に感情移入はしません。顧客と関係性を深めながらものづくりしたいという思いが地元志向につながっていたのかもしれない。昔は地元から都会に出て仕事や勉強をしていることがステータスのように言われていましたが、都会から地元に戻ってきて頑張っている若者が誇りを感じられるまちにできればいいですね。



Tsuyoshi Saito



さいとう つよし 齊藤 劭 さん

神岡地区自治会連合会会長(神岡・68歳)

「自助共助」は言葉ばかりが先行していて実感できないものでした。しかし、最近は行政頼みではなく自分たちで力を合わせれば物事が早く解決できるという考えが広く住民に浸透し始め、地域住民が声を掛け合い、助け合おうとする意識が高まっているように思います。これは合併の効果のひとつだと感じています。税収が今後上向くとは考えに

くく、国に財源を依存する体質の改善は困難です。ならば、住民と行政が歩み寄り、住民がいかに自分たちで頑張っていくかということが大事になります。現役で仕事を頑張っている40代から50代の皆さんには地域の行事への参加の機会を少しずつ増やし、地域を良くしていくために必要なことを考える感覚を養ってほしいです。



おおかわ ななこ 大河奈々子さん

主婦(仙北・33歳)

子どもをもつと周囲との関わりが増えます。自然と自分が住む地域について考えるようになりました。出産後、まもなく市町村合併しましたが、小学生の市内スキー場利用料金の無料化は広域化が活かされたものだと思いますし、行政手続きや期日前投票などが市内の庁舎であればどこでもできるのも便利。旧町と比較して考えること

はありません。地域協議会では最年少。自分の意見が地域住民や同世代の代表の意見ではなく自分個人の意見であるような印象を与えてしまっているのではないかと考えることがあります。協議会に限らず、話し合いの場には同世代にもっと参加してほしいですし、横のつながりで悩みや地域の課題について話し合ってみたいです。



Nanaoko Okawa



いとう かつよし 伊藤勝良さん

自営業(太田・47歳)

自宅敷地内の事務所でソフトウェアの開発業を営んでいます。地元で仕事をしている上で地の利・不利を感じることはあまりありません。このごろ気になるのは空き家の増加。市内を車で走っていると目につきます。以前、ITの最新動向についての講演会に参加したところ、講師の方が「日本の少子高齢化の解決策は、今その問題に直面

している地方から生まれる可能性が高い」と話していました。私自身は現在知り合いからの相談をきっかけに痴呆などが原因で屋外を徘徊する高齢者の位置情報を家族のスマートフォンに通知する位置感知システムを開発中です。高齢化率が高い秋田県にはその先進地として新しい取り組みを生み出すチャンスがあると思います。



Katsuyoshi Ito



くまがい まこと 熊谷亮さん

「道の駅なかせん」駅長(中仙・44歳)

旧中仙町は観光を柱にしたまちづくりを目指した旧角館町・旧田沢湖町・旧西木村と、基幹産業の農業を軸に頑張っていこうとしていた現在の大仙市の枠組みの旧7市町村と、どちらと合併するかで悩み、住民アンケートの結果を基に、後者との合併を選択しました。「道の駅なかせん」では地元産の米を使った商品の充実に取り組んでいま

す。農産物販売も行っていますので、農家の皆さんにはぜひ野菜をたくさん持ってきていただきたいです。そのためにも高齢の方にはいつまでも元気でいてほしいですし、若手の皆さんにも頑張ってもらいたいです。農家の元気が活力あるまちづくりにつながるはず。振り返ると、大仙市として合併できたのは良かったと感じています。



Makoto Kumagai



佐藤 美佐子 さん

会社員(西仙北・52歳)

西仙北地域では4つの小学校と3つの中学校が統廃合し、小・中学校がそれぞれ1校にまとまりました。少子化を考えるとやむを得ないと思いますが、登下校で地域を歩く子どもたちの姿を目にする機会が少なくなったのは寂しいです。閉校後の校舎の利活用については地域協議会でも議論しましたが、子どもたちが使っていた場所をこれから

は高齢者向けに使えるようにしていく方法を考えることも必要かと思っています。また、市にはさまざまなイベントがありますが、大きなものにはばかり関心が集まりすぎている気がします。長い間継続して行っている行事を大事にしたいですし、小規模でも市外から人を呼び込めるような新しい発想のイベントの開催に期待したいです。



菅原 俊一 さん

協和認定農業者協議会会長(協和・64歳)

農家は国の施策に振り回されている感がありますが、農家の話を聞いてくれるのは結局市の職員で、特に支所の職員は、市町村合併後、数がどんどん減っているのに仕事は減らず、仕事の内容も複雑になっているようで気の毒です。住民は国に直接物を言うことはできませんが、身近な市の職員には相談できますので支所が今後機能を縮

小していくとすれば残念です。また、消防団では分団の統廃合を進めていますが、分団の担当区域を広域化してしまうと自分が住む身近な地域を自らの手で守るといった団員の意識が希薄化しそうで心配です。地域の枠組みをそのままに人口減少に合わせて組織の形を変えると現実問題との間に隔たりが生じてしまう気がします。



木村 ふみ子 さん

外小友婦人会会長(南外・65歳)

市町村合併後、南外地域では地域を盛り上げようと「さくら祭り」や「南外小唄まつり」などそれまでなかった新しいイベントが企画されました。イベントや習い事、サークル活動などの集いの場は参加するだけで元気が出ますし、励みになります。高齢者が多い地域ですので、若い人たちへ一緒に頑張ろうと呼びかけてもすぐにはなかなか

前に出づらい雰囲気があると思いますが、今後若い人たちが活動しようと思ったときに「おばあちゃんたちはあのときこうやっていたんだ」と参考になるような道筋をつくりたいです。これからは高齢者が主役。仲間とコミュニケーションを深め、生活に目標を設定しながら元気に過ごしていける、そんな地域であってほしいです。



大仙、季節の風物詩



1



3



2



4



5



6



7



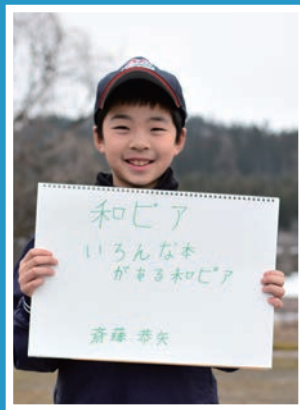
8

古くから受け継がれてきた伝統行事や小正月行事、白球を追ひ繰り広げられるドラマに満ちた熱い戦い、夜空に咲き誇り見上げる者を魅了する花火。わたしたちのまちは、彩り豊かな季節の風物詩にあふれています。

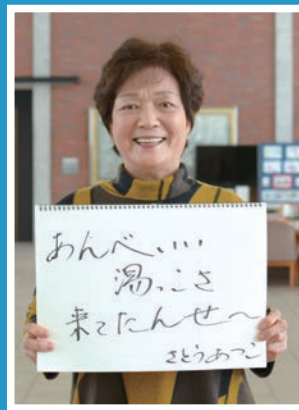
1. ドンパン祭り(8月) 2. 扨田柵の冬まつり(2月) 3. 刈和野の大綱引き(2月) 4. 榎岡さなぶり酒花火(6月) 5. 能公演(8月) 6. 全県500歳野球大会(9月) 7. 太田の火まつり(2月) 8. 全国花火競技大会「大曲の花火」(8月)



かとうあさみ
加藤亜沙美さん



さいとうきょうや
斎藤恭矢さん



さとうあき
佐藤敦子さん



ふきやたいき
吹谷泰基さん

ま
よ
か
せ
ん
わ



たかはしあきら
高橋慧さん



こんどう るみ
近藤瑠美さん

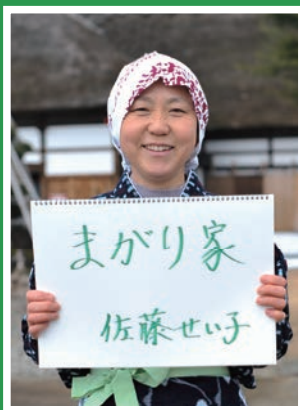


きもとやすふみ
木元靖文さん

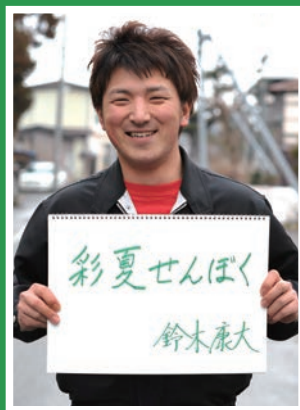


こまつ
小松リツさん

ま
よ
か
せ
ん



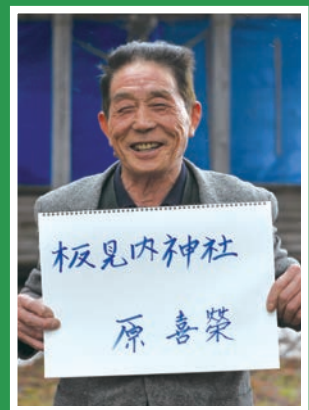
さとうせいこ
佐藤せい子さん



すずきこうたい
鈴木康大さん



あんどうあやね
安藤綺音さん



はら けい
原喜栄さん

せ
ん
ぼ
く



ココがお気に入り！

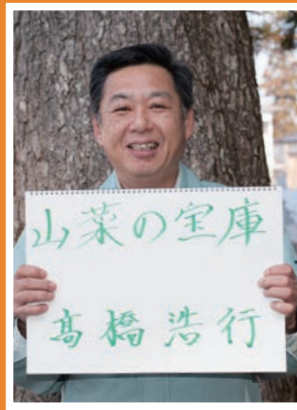
たよ
こが
い



いとうれん
伊藤蓮さん



そうましずか
相馬静華さん



たかはしひろゆき
高橋浩行さん



ささきともみ
佐々木知美さん

か
み
お
か



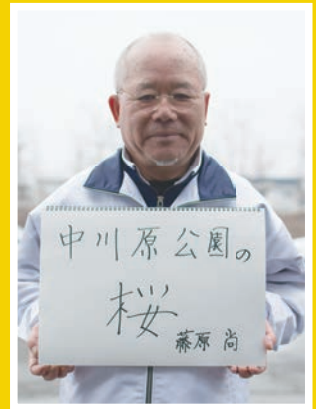
ごとうこうこ
後藤幸子さん



むとうよしひと
武藤良仁さん

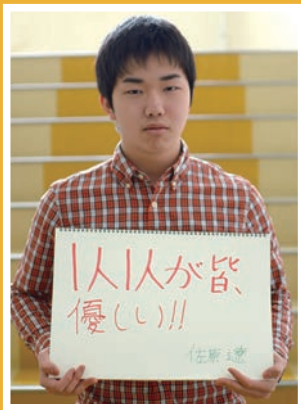


ふるや かの か まお
古屋ほの葉さん・真央さん
(写真右)



ふじわらたかし
藤原尚さん

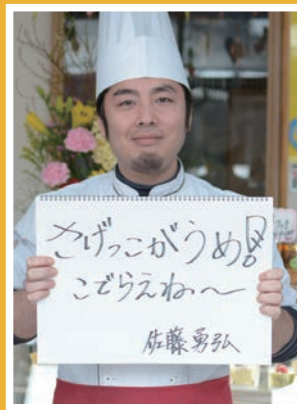
い
っ
せ
こ
ぼ
く



さはりりゅう
佐原遼さん



さいとうしずえ
斉藤静江さん



さとうたけひろ
佐藤勇弘さん



ふじわらきょうこ
藤原京子さん

おおきなせなかに

夢を乗せ 未来に^{あす}羽ばたく 元気なまち

市の花木鳥



コスモス



ケヤキ



カワセミ



大仙市民憲章

わたくしたちのまち大仙市は、豊かな自然と広大な田園に囲まれ、先人のたゆまぬ努力によって栄えてきた歴史あるまちです。

わたくしたちは、この貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民一人ひとりが誇りと責任を持って、いきいきと暮らせる100年都市をめざして、ここに市民憲章を定めます。

- 一 自分を高め 心を寄せ合い ぬくもりのあるまちをつくります
- 一 ふるさとを愛し 緑の山河を守り 美しいまちをつくります
- 一 きまりを大切に 力を合わせ みんなで働くまちをつくります
- 一 健康に努め 家族を思いやり 笑顔の輝くまちをつくります
- 一 歴史を見つめ 伝統に学び 文化の花咲くまちをつくります

平成22年3月22日制定

保存版

Daisen City 10th Anniversary Memorial Book

大仙市誕生 10 周年記念誌

平成 27 年 4 月 発行

編集・発行 / 大仙市役所 企画部 総合政策課

〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号

☎ 0187-63-1111 (代表)

URL <http://www.city.daisen.akita.jp>



大仙市マスコットキャラクター
「まるびちゃん」